３、文集

事前アンケートでは、特定のテーマで全員の皆さんに書いて戴くような設問でした。アンケートの結果を受けて、「自由参加、自由課題とし、文章以外の写真や絵画も投稿して戴く。」ことで　お願いしました。

テーマの自由度を広げましたが、読み易くするためのフォーマットの統一とページ上限（2 ページ）の設定をさせて戴きました。

それぞれに、ユニークな内容をお読みください。

１、徳田先生と中小企業　～徳田先生の想い出　　石井　武彦

徳田先生はよく中小企業での経験を話されていました。先生が勤務されていた中小企業が倒産し、その都度新たな中小企業に移られたとの事です。

私にとって中小企業とは外注先としての関係のみで、徳田先生のような経験はありませんでした。

しかし、定年退職後に、区役所の企業相談員として中小企業と付き合い始めて中小企業に対する考えが変わりました。

中小企業のオヤジは職人だと云う事です。

中小企業の奥さんから次のような事をお聞きしました。ご主人は旋盤加工については誰にも負けないが、65 歳を過ぎてからはご多分にもれず仕事が殆ど無くなり廃業したのですが旋盤は廃却せず、家族が廃却を希望しても聞き入れませんでした。しかし、正月の朝にご主人が旋盤の前でお神酒を供えて「家族を支えてくれて有難う」と拍手を打っているのを見て、旋盤を廃却して欲しいと云えなくなってしまった。これが職人と云うものでしょう。

また、中小企業は家族的と言われるが、次のような事もありました。

婦人服を縫製している企業で、ベトナム人を雇っています。ボートピープルで仕事が一人前に出来るようになるとベトナムから家族を呼び寄せることを外務省と交渉し成功しました。相当強力に要求しないと認許が下りないそうです。中小企業は家族の面倒もみて家族的と言われる例です。

また、ベトナム人は我慢強く、風邪を引いても精神力で直してしまうとの事です。現在では戦力として無くてはならなくなっているとのことです。

このような話を聞くと徳田先生の云われていた事が思い出されます。

以上